

# 教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

旧CAI学会

## ニュース・レター No.102



### 第73回研究会開催のお知らせ

CAI 研究部会 (部会長/黒瀬能幸)

今年度2回目の研究部会です。CAI研究部会は、本学会が力をそそぐ部研究会のひとつです。たくさんのかたがたのご参加をお待ちしています。

1. 日 時: 1999年11月27日(土) 10:00~17:00

2. 開催場所: 岡山理科大学

3. 内 容:

開会行事 10時00分

1) 中学校数学の学習支援システムの開発(10時10分)

川本満隆・貞清真也・宮地功(岡山理科大学)

2) 穴埋め記述式問題によるC言語学習支援システム(10時35分)

下山寿継・宮地功(岡山理科大学)

3) 英文和訳の学習支援システムの開発(11時00分)

宮地功・太田奈留美・岡田美香(岡山理科大学)

4) 友達関係改善支援システム(11時25分)

竹内聡・清水軍治・宮地功(岡山理科大学)

昼休憩

5) 地球内部を自学自習するためのコンピュ-タソフトの開発(13時30分)

野瀬重人(岡山理科大学), 平松良夫(総社東中学校), 宮地功(岡山理科大学)

6) C言語演習での学生指導に利用するシステム(13時55分)

最首和雄・大木秀志・石田賢孝(明星大学)

7) 漢字学習を誘発するためのコミュニケーション支援エージェントの構築(14時20分)

森隆志・越智洋司・劉玉琴・緒方広明・矢野米雄(徳島大学)

8) WWWを利用した開放型グループ学習環境Sharlok IIにおける

Knowledge Awareness Mapの構築(14時45分)

今井健二・松浦健二・緒方広明・矢野米雄(徳島大学工学部)

休憩

9) Web-CAI における対話的インターフェース (15時25分)

梶浦文夫 (倉敷芸術科学大学)

10) iTM System における部分教材の挿入と (15時50分)

光原弘幸 (近畿大学大学院), 黒瀬能幸 (近畿大学)

11) 画像計測技術の学習支援システム (16時15分)

田中一基 (徳島大学大学院), 山本直樹・黒瀬能幸 (近畿大学), 矢野米雄 (徳島大学)

閉会行事 (16時40分)

(注) 研究会終了後懇親会 (会費 5,000円程度) を予定しています。

問い合わせ先: 黒瀬能幸 (近畿大学工学部) E-mail: kurose@info.hiro.kindai.ac.jp

Tel 0824-34-7000 (内線 690), Fax 0824-34-7011 (事務室)

## **新名称** 第74回研究会開催のお知らせ インターネットとその教育応用研究部会 (部会長/横山節雄)

本研究会は、これまで「インターネットとマルチメディア」の名称でしたが、今年度から標記の名称に変わりました。今回、学会誌の「インターネット技術と教育」特集論文の前哨戦として、下の要領で研究会を開催します。多くの方のご参加をお待ちします。

1. 日 時: 1999年12月4日(土) 13:30~17:00 (時刻が変更になりました)

2. 開催場所: 工学院大学新宿校舎 28階第2会議室

(新宿区西新宿1-24-2: JR新宿駅西口下車徒歩7分)

3. 内 容:

1) Web構築を支援するシステムの開発

市川尚・鈴木克明 (岩手県立大学)

2) バーチャルスクールにおけるネットワークコミュニケーションの実践と評価

山本麻美・白戸仁博・佐々木整・竹谷誠 (拓殖大学)

3) 教育実習指導におけるネットワーク活用の試み

後藤貴裕, 河野真也 (東京学芸大学附属高校大泉校舎), 宮寺庸造・横山節雄 (東京学芸大学),

内田吉宣 (電気通信大学), 中村直人 (千葉工業大学)

4) インターネットを利用した教師研修システムの開発

関一也・井上久祥・岡本敏雄 (電気通信大学), 鷹岡亮 (山口大学教育学部)

5) 教科「情報」実践事例ベースシステムの開発 - 事例検索, 事例修正機構の実装 -

井上久祥・岡本敏雄 (電気通信大学)

6) PHPスクリプトを用いた表計算数式の正誤解析

高橋進 (信州短期大学)

7) システム開発教育における議論支援モデルの考察

諸戸加織・宮寺庸造・樫山淳雄・横山節雄（東京学芸大学）

問合せ先：横山節雄 東京学芸大学 情報処理センター E-mail : yokoyama@cs.u-gakugei.ac.jp

Tel 042-329-7474 dial-in Fax 042-322-9898

新設

## 第75回研究会開催のお知らせ

### マルチメディア教材研究部会（部会長/磯本征雄）

マルチメディア教材研究部会は、近年のインターネットの急速な普及に合わせて、マルチメディア教材の理論、研究開発、利用実践の研究発表や情報交換を目的に創設されました。マルチメディア教材の内訳は、CAI、ICAI、映像・画像教材、数値データ、資料、等々と多様ですが、電子化されたパソコン等で使える教材をマルチメディア教材研究部会の扱う範囲とします。また、電子化された学習教材をインターネットを介して利用する場合も本研究部会の扱い対象です。

今回、本研究部会ははじめての研究会です。多くの方のご参加をお待ちします。

1. 日 時：1999年12月11日（土） 10：00～16：00

2. 開催場所：名古屋市立大学 山の畑キャンパス（名古屋駅より地下鉄桜通線「桜山」下車徒歩10分、または金山駅より市バス市立大学病院方面「滝子」下車徒歩5分）。名古屋市立大学山の畑キャンパスへの案内図は、<http://www.nagoya-cu.ac.jp/nagoya-cu/lmapj.html>をご参照下さい。

3. 内 容：

1) 異文化理解のためのBBSの開発と活用

西野和典（大阪府立旭高校）

2) マルチメディア教材としての絵画検索システム活用について

山崎初夫（名城大学）、野崎浩成（愛知教大学）、吉根勝美（南山大学）、  
磯本征雄（名古屋市立大学）

3) ASPによるWeb版シラバスシステムの開発

舘秀典・中西宏文（愛知教大学）

4) 看護学のための教育支援システム

杉浦美佐子・小林純子（日赤愛知短大）、

杉原健一（岐阜経済大学）、磯本征雄（名古屋市立大学）

5) 「高校数学」個別学習プログラムの開発と実践の統計分析

丹羽時彦（関西学院高等部）

昼 食

6) 選択理科におけるプレゼンテーション用ソフトの活用

岡谷善博（長野市立西部中学）、大下真二郎（信州大学）

7) VODによる授業実践

岡谷善博(長野市立西部中学), 大久保元規(長野市立桜ヶ岡中学), 細田啓介(長野市立松ヶ丘小学), 飯島俊秀(長野市立山王小学), 角間史康(長野市立南部小学), 大下眞二郎(信州大学)

8) 映画を用いた英語教育におけるVOD方式の比較検討

大倉孝昭(大谷女子大学)

9) 音楽教育用VODの開発と学習試行例

松本裕(東日本電電株), 飯森敬子・小林英一(長野市立保科小学),  
樋口順子・数藤崇(東日本電電株)

10) イメージを重視したVOD利用 ~小学校理科学習の試行例~

田原徹(長野市立青木島小学), 松本裕(東日本電電株), 大下眞二郎(信州大学)

11) 建築・土木系の都市計画科目における3次元仮想都市シミュレータの開発

杉原健一(岐阜経済大学)

12) しし座流星群の3次元C.G.による可視化と教育的活用

毛利勝廣(名古屋大学・名古屋市科学館), 野田学(名古屋市科学館),  
安田孝美・横井茂樹(名古屋大学)

最新情報は, <http://www.tcp-ip.or.jp/itous/jsisemmm/> をご覧ください。また, お問い合わせは, 幹事の伊藤敏(E-mail: itous@infonia.ne.jp) まで。

## 教育システム情報学会 第66回理事会開催 今年度選挙後の役員の仕事分担等を決める

さる10月25日(月), 17時30分から東京新宿の工学院大学会議室で, 第66回理事会が開かれた。会議は, 今年(99年度)行われた役員改選の選挙結果に基づいて, 各役員の仕事分担を次のように決めた。

会 長 対馬勝英  
副 会 長 岡本敏雄(情報教育特別担当)  
副 会 長 矢野米雄(編集担当)  
理 事 赤堀侃司  
理 事 石桁正士(大会企画担当)  
理 事 磯本征雄(企画担当)  
理 事 伊藤紘二(組織運営担当)  
理 事 大下眞二郎(研究会担当)  
理 事 大槻説乎(シンポ・国際会議担当)

理 事 菊川 健(会計担当)  
理 事 小松秀園(情報教育特別担当)  
理 事 坂元 昂  
理 事 清水康敬(会計担当)  
理 事 菅井勝雄(企画担当)  
理 事 永岡慶三(組織運営担当)  
理 事 永野和男(編集担当)  
理 事 渡辺成良(研究会担当)  
理 事 溝口理一郎(シンポ・国際会議担当)  
理 事 上月景正  
監 事 小荒井順  
監 事 今栄国晴  
事務局長 竹本宜弘

また, 会長指名の評議員(任期4年)5名に

ついても審議したが、ここでは推薦候補が絞れなかったため、後日、会長案として一任することになった。

なお、現在までの評議員を次に掲げる。

評議員	家本 修	大阪経済大学
評議員	大岩 元	慶應義塾大学
評議員	奥田富蔵	東海大学
評議員	工藤育男	ジャストシステム
評議員	竹内 章	九州工業大学
評議員	竹本宜弘	工学院大学
評議員	立田ルミ	独協大学
評議員	樋川和伸	金沢学院大学
評議員	細井 正	山村女子短期大学

評議員	前迫孝憲	大阪大学
評議員	松永公廣	摂南大学
評議員	村本 紘	金沢工業大学
評議員	山崎敏範	香川大学
評議員	横山節雄	東京学芸大学
評議員	米澤宣義	工学院大学

(注) 会長指名の5名の評議員については選任中。

また、来年度全国大会については、教育工学関連学協会第6回全国大会と共催で、鳴門教育大学で実施することを確認した。

さらに、次々回の大会は、信州大学が候補のひとつに上げられた。



1999年9月11日～1999年11月10日

#### 新入会員（敬称略）

JSiSE-9901665	千葉 聡	ES東芝エンジニアリング(株)
JSiSE-9901666	新居尚道	作陽短期大学
JSiSE-9901667	菅谷克行	早稲田大学
JSiSE-9901668	篠原正典	NTT東日本 法人営業本部
JSiSE-9901669	小金丸兼明	学校法人福田学園 東和大学
JSiSE-9901670	森口一郎	学校法人福田学園 東和大学
JSiSE-9901671	小栗伸重	富士ゼロックス(株)
JSiSE-9901672	氏間和仁	愛媛県立松山盲学校
JSiSE-9901673	福島祥夫	群馬女子短期大学

## 今年度（99年度）の 会費を請求しています。

未納の方に請求書を同封しています。  
会費の前納にご協力ください。

会費未納者の方へ、今年度（99年度）  
会費を請求させていただきました。

今回は、まだ納入いただけていない方のみに、あらためて請求書と振込用紙を同封していますので、ご納入いただけますようお願い申し上げます。

2年、3年とまとめて納入される方もいらっしゃるかもしれませんが、学会運営は単年度予算で運営しています。1年単位の会費納入にご協力ださるよう重ねてお願いいたします。

すでに99年度分を納入されていたり、請求書記載の金額がちがう場合は、請求書発行時の行き違いもありますので、お手数ですが、事務局へお問い合わせくだされば幸いです。

E-mail : secretariat@jsise.org

## 国際会議の案内

ここで紹介されている国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れているCFP情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡ください。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますのでそちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW ( <http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/hayashi/jsise/conf.htm> ) で見ることもできます。

### ITS 2000: The 5th International Conference on Intelligent Tutoring Systems

開催日程：2000年6月19-23日  
主催：Universite de Montreal, ACM, IEEE CS  
開催地：Montreal, Canada  
論文応募締切：1999年12月20日  
URL: <http://www.info.uqam.ca/its2000/>  
e-mail: [frasson@iro.umontreal.ca](mailto:frasson@iro.umontreal.ca)

### Virtual Worlds 2000: Second international conference on Virtual Worlds

開催日程：2000年07月5-7日  
主催：International Institute of Mulimedia  
開催地：Paris, France  
論文応募締切：1999年12月31日  
URL: <http://www.devinci.fr/iim/vw2000>  
e-mail: [Heudin@devinci.fr](mailto:Heudin@devinci.fr)

### IEEE SMC 2000: IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics

開催日程：2000年10月8-11日  
主催：IEEE

開催地：Music City Sheraton, Nashville, Tennessee, USA

論文応募締切：2000年02月18日

URL: <http://mot.vuse.vanderbilt.edu/smc2000/>  
e-mail: [cis-irl@vuse.vanderbilt.edu](mailto:cis-irl@vuse.vanderbilt.edu)

### ICCE/ICCAI 2000: International Conference on Computers in Education/International Conference on Computer-Assisted Instruction 2000

開催日程：2000年11月21-24日

主催：APC of AACE

開催地：The Grand Hotel, Taipei, Taiwan

論文応募締切：2000年05月01日

URL: <http://icce2000.nthu.edu.tw/>  
e-mail: [icce2000@tcfst.org.tw](mailto:icce2000@tcfst.org.tw)

(以下、前号にも掲載)

### FLEAT IV: Fourth International Conference on Foreign Language Education and Technology

開催日程：2000年7月29日-8月01日

主催：LLA Kansai Chapter

開催地：Kobe, Japan

論文応募締切：2000年01月20日

URL: <http://www.hll.kutcc.kansai-u.ac.jp:8000/fleat4.html>  
e-mail: [fleatproposal@kuins.ac.jp](mailto:fleatproposal@kuins.ac.jp)

### PRICAI 2000: The Sixth Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence

開催日程：2000年8月28日-9月1日

主催：PRICAI

開催地：Melbourne Convention Centre, Melbourne, Australia

論文応募締切：2000年2月11日

URL: <http://www3.cm.deakin.edu.au/pricai/frames/main.html>  
e-mail: [pricai@deakin.edu.au](mailto:pricai@deakin.edu.au)

次ページにつづく

WebNet 2000: World Conference on the  
WWW and Internet

開催日程：2000年10月30日-11月4日

主催：AACE

開催地：San Antonio, USA

論文応募締切：未定

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: [conf@aace.org](mailto:conf@aace.org)

国際会議案内文責 松原行宏（香川大学）  
[matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp](mailto:matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp)

ニューズレターは、  
隔月（奇数月）に発行しています。

次号（No.103）のニューズレター発行予定は、  
2000年1月下旬になります。原稿締め切りは  
1月10日です。

また、今年度最後のニューズレター（No.104）  
発行は、3月中旬になります。このときに新  
年度会費のご請求をさせていただきますので  
よろしくおねがいいたします。

## 日本学術会議50周年記念シンポジウム

### 科学技術教育の国際協力ネットワークの構築

1. 主催：日本学術会議 第4部 科学教育研究連絡会（委員長坂元昂）
2. 日時：平成11年12月6日（月） 10：30～17：00
3. 会場：日本学術会議 大会議室 学術課（電話 03-3403-1056）東京都港区六本木7-22-34
4. 次第：

第1部 『科学技術教育の国際協力の取り組み』10：30～12：30

- 1) 趣旨説明：坂元昂（文部省・メディア教育開発センター所長）（10分）
  - 2) 国際科学会議（ICUS）・世界科学会議（WSC）および日本学術会議の科学技術教育の国際協力の役割（30分）  
大橋秀雄（工学院大学学長 日本学術会議第5部長）
  - 3) 国際科学会議（ICUS）および世界科学会議（WSC）の報告と国際協力（20分）  
木村捨雄（鳴門教育大学・学校教育学部教授）
  - 4) 文部省における科学技術教育の国際協力の取り組みの現状と課題（20分）  
未定，交渉中（文部省・学術国際局）
  - 5) JICAの科学技術教育の国際協力の取り組みの現状と課題（20分）  
未定，交渉中（JICA）
- 総合討議（司会 福岡敏行：横浜国立大学・人間教育学部教授）

第2部 『科学技術教育の国際協力ネットワークの構築』 13：30～17：00

- 1) インドネシアで進めている科学技術教育の国際協力の現状と課題（20分）  
下條隆嗣（東京学芸大学・教育学部教授）
  - 2) ケニアで進めている科学技術教育の国際協力の現状と課題（20分）  
池田秀雄（広島大学・教育学部教授）
  - 3) フィリピンで進めてきた科学技術教育の国際協力の現状と課題（20分）  
日浦賢一（国際協力事業団）
  - 4) APEIDで進めてきた科学技術教育の国際協力の現状と課題（20分）  
篠原文陽児（東京学芸大学・教育学部助教授）
  - 5) 日本の科学技術教育の国際協力のポイント（1）（20分）  
内海成治（大阪大学・人間科学部教授）
  - 6) 日本の国際協力のポイント（2） リンケージ・リーダーシップ・国際協力貢献（20分）  
大隈紀和（京都教育大学・教育実践研究センター教授）
  - 7) 科学技術教育に関する日本の国際協力ネットワーク構築の方向について（20分）  
坂元昂（文部省・メディア教育開発センター所長）
- 総合討議（司会 木村捨雄：鳴門教育大学・学校教育学部教授）

# [ 第72回研究会 報告 ]

## 企業内教育研究部会

今年度最初の研究会です。ここに掲載してあるのは、概要ですが、これらの論文は、研究報告書にあります。ご希望の方は、事務局までFAX(03-3342-0485)、またはE-mailでお申し込みください。1部1300円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。この「研究報告」の年間購読(購読料は送料込みで年間4,000円)をご希望の方は事務局までご連絡ください。今年度から発行回数が6回にふえています。この際、ぜひ購読されるようおすすめいたします(教育システム情報学会研究委員長/大下眞二郎)

・開催日: 1999年10月22日(金)

・場所: 工学院大学新宿校舎

### 1. 教育システム工学サーベイ1999

君島浩(株富士通ラーニングメディア)

教育システム工学に関する筆者の最近の見聞を紹介する。前回の1998年10月の発表より後の話題である。企業内教育の研究・実践に取り組んでいる人へ先端情報を提供する。また、このサーベイは初めて企業内教育に取り組む人にも参考になるだろう。

### 2. 実務に直結したSE研修の試み

篠崎直二郎(NECソフトウェア)

SEスクールとは、ソフトウェア技術者の実務能力を総合的に向上させ自立を促す研修群であり、実践的な参加型教育で業務遂行能力を身に付ける。グループでの役割や作業方法の工夫を重視し、実業務へのフィードバックを意識した実務訓練が基本となるものである。進め方としては、会社を設立(グループを会社に見立て、組織や役職を決定)し、想定顧客のニーズ把握と提案検討し、顧客提案(プレゼンテーション)を行う。SEスクールの特徴は、

- ・成果目標を示し、目標達成の方法はグループで決定
- ・トレーナはコーチに徹底し、学習者の自主性を引き出す
- ・成果発表の場に職場の上司が参加し、講習会での成果を実業務にリンクする。

などがある。

### 3. 教育工学(CRI)実践報告

森泉清(リコーテクノシステムズ株)

CRI導入の背景はISO9001の維持、JQA審査を受けるために教育の品質を把握して明確にする必要があったことがあげられる。

なかでも教育の実施結果・品質を把握する仕組みの明確化や教育の効果を高めるために、教育の実施結果を把握する仕組みを構築する。

また、教育の精度を高めるために、実施した教育品質を把握する仕組みを明確にする。導入前の課題としては・修了テスト70点で残り30点で発生したトラブルは誰の責任なのか、などや、ペーパーテストで本当に保守できるか分かるのか、といったことを明らかにする。

さらに、「市場性を取り入れる」と言うが市場の何を取り入れるのか、や、トレーナのバラツキで受講生はバラツかないのか、研修の品質や効果は何で見るのか。などが具体例をあげて語られている。

### 4. 米国におけるWBT最新事情

藤田由美子(ユーミックス)

(当日配布)

### 5. WBTシステムの標準化動向

TBTコンソーシアム ガイドラインWG  
WWWを利用した教育研修システム(WBT)の標準化動向およびTBTコンソーシアムで策定した標準化ガイドラインについて述べる。

米国ではAICC規格をベースにこれを拡張した



標準規格の検討が IEEE, ADLNet などで行われている。TBT コンソーシアムガイドライン WG では AICC 規格をベースに既存の CD-ROM コンテンツや非標準 WBT システムへの適用を考慮したガイドラインを策定した。

#### 6. ビジネスゲームのネットワーク化における期待と可能性

佐藤秀幸 (株)エム・イー・エル)

本発表の概要は、

- ・ E-mail を活用した遠隔研修 = 非集合型研修。
- ・ 基本構成は従来の集合型 BE-Pro に準ずる。
- ・ 最大 10 社の参加。(1 人 1 社対応も可能)
- ・ 社内対戦のみでなく、他流試合も設定可能。
- ・ 参加者相互対戦でなく、PC 対戦 1 人参加型は別途開発。

などであった。

#### 7. 企業経営と人材育成をリンクさせるコンピテンシーマネジメントの適用

鈴木英則 (株)富士通ラーニングメディア)

毎年の研修投資は経営戦略をどの位反映しているのか。また、自社技術者のキャリアパスやスキル標準をどう描くか、さらに、新事業、新市場への進出に対する社員のスキルレベルはどのような状態か、などがことこまかに明らかにされている。顧客からの先端技術要求に対して社員のスキルがどの程度対応しているか、などを背景に、プロフェッショナル IT 技術者としてのスキルスタンダードの明確化や人材育成課題の明確化、そして(企業としての) IT 技術者のスキル戦力分析などをしぼって発表された。

#### 8. 日本での WBT 普及の考察

小松秀園 (NTT ラーニングシステムズ(株))

ASTD の概要、アメリカでうまく使われている WBT, North West パイロット訓練の CBT, アメリカで使われている WBT の活用例, パターン 1-PSS をプラス, パターン 2-並行利用, パターン 3-集合教育での自主学習, 専門学校での WBT, ベルアトランティック社の WBT & PSS & Competency Management System, 手探り状態の日本の WBT, 日本にない PSS の考え方, 日本のハンデキャップ,

疑問のあるセールスの仕方, 情報化時代のワークパラダイム, 企業内教育へのインパクト, 提案, WBT & PSS 成功の条件, WBT & PSS を適用してうまくいく条件, 成功のための 3 つのポイントなどが発表された。

#### 9. 低迷する学校教育と次世紀へ向けての改革への指針

米島博司 (株)日本電気インターナショナル トレーニング)

学校教育の善し悪しはおそらく数十年の後にその影響が出るというほどの長期的な視野から見る必要がある。教育世界に限らず世紀末的な様相を帯びている昨今の世相も溯れば数十年昔の学校教育の影響がないとは言えないはずで、一度改善すれば直ちに効果が表れるといった代物ではないところに学校教育の難しさがある。

学校教育, 企業内教育に関係なく, ともすると教育の現場が閉鎖的, 没社会的な方向へ走る危険性があることは, 当事者であれば誰もが潜在的に問題視しているところであろう。成長の証しである変化の連続は閉鎖的な場からは決して期待できないのであって, 当事者, 非当事者の枠を取り払い共有の問題として本質的な議論を行うことが大切だと考える。

本稿の目的は, ただいたずらに学校教育に批判を加えることではない。むしろ学校教育と企業活動, 社会活動が密接に関係しているという見地から, 企業内教育への教育工学の応用を推進する立場から得た見解を示し, 学校教育を改革しようと日々邁進されている方々に, 僭越ながらわずかでも指針となるようなヒントを得ていただくことにある。

#### 10. CRI 技法によるオペレータ早期育成教育

村嶋和明 (東邦石油(株)尾鷲工場)

CRI 導入の目的, 導入のための取り組み, コースマップ, 新入社員教育学習モジュール群, そのモジュール例, そして改善事項やその成果をまとめたものが発表された。

# 2000年特集号 論文募集してます。

テーマは

## 「インターネット技術と教育」

教育システム情報学会（旧 CAI 学会）では、学会誌 2000 年度秋号（2000 年 10 月発行予定）において、「インターネット技術と教育」の特集を行います。

インターネットは、教育のさまざまな場面に応用され、有効なシステムとして機能しています。今回、「インターネット技術と教育」をテーマに、インターネットを利用した教育システム、インターネット技術を活用した教育実践などについての先進的研究をまとめ、この分野の現状と将来の展望、そして課題を明らかにすると共に、幅広い研究・開発を促進することを目的に、特集号を企画しました。

皆様方の新規性に溢れた研究を、また有用性十分な実践を論文にまとめて、ぜひご投稿ください。

対象分野：インターネットを利用した教育システム、インターネット技術を活用した教育実践など、インターネット技術と教育に関係する研究および実践全般。

論文種別：今回募集する論文の種別は、「原著論文」、「実践論文」、「ショートノート」、「実践速報」、「資料論文」である。ただし、査読の結果、異なる種別での採録となることもある（論文種別については、「学会誌原稿執筆要領」を参照のこと）。なお投稿の際、原稿の 1 ページ目に、論文種別と特集号であることを、必ず明記すること。

制限枚数：「学会誌原稿執筆要領」に記されている、論文種別による制限枚数のとおりとする。

投稿締切：2000 年 4 月 1 日事務局必着。

寄稿の手続き：封筒の表に必ず「特集号・論文原稿在中」と朱書きで記すこと。その他の寄稿の手続きについては、「学会誌原稿執筆要領」に記されているとおりとする。

連絡先・原稿送付先：教育システム情報学会事務局

〒163-8677 東京都新宿区西新宿 1-24-2 工学院大学情報科学センター内

Tel:03-3342-0485 Fax:03-3340-0135 E-mail:secretariat@jsise.org URL <http://www.jsise.org/>

科学者・技術者100万人集会  
第9回科学技術振興・推進に関するシンポジウム  
科学技術と社会

開催日：1999年12月17日（金） 13：00～17：20

会場：鹿島K ビル地下大会議室

問い合わせ先：（社）日本工学会 東京都港区赤坂 9-6-41 Tel03-3475-4621 Fax 03-3403-1738